

全日本大会を振り返る

松澤俊行

4月27日(日)、好天の下で開催された全日本大会。しかし、この冬は各地で酷寒、豪雪の状況が見られ、大会の準備状況を不安視する声も聞かれていた。迎えたその日のコースは、道場主の目にどう映ただろうか。



気合の入った走りでテレインを駆け抜ける松澤俊行

全日本ならではの…

全日本大会前日。筆者は大会会場に足を運び、菅平の気温や酸素濃度を体感していました。前々週に、「菅平対策」と銘打った三河 OLC 主催「茶白山練習会」(菅平テレインと似た高度の、スキー場を含むテレインで開催)に参加した際に似た空気を感じており、「確かに良い対策になった」と前向きな気持ちになっていました。

前日イベントのスコア 0 の地図をもらった後、スタート時刻より前にコースを走らせてもらうよう交渉。ルート上を外れなければ、翌日の競技に差し支えないようで、許可が下りました。道走り中心のコースを、ジョギングペースで走行した 1 時間弱の内に、距離感の調整や、サマーディニングの徹底などを図って、気分も高めていきました。最後は刺激を入れようと 1km3 分 20 秒のペースで 1.4km ほど走ってみて、風景が速く流れて行く感触も確かめておきました。

宿泊は上田駅付近。酸素が豊富な場所です。休息と栄養を取り、翌日に備えました。酸欠に残雪を踏みしめる負荷も加わる長丁場のレースを見込んで、食事でも普段より多めに、そして胃の負担にならないよう、回数を分けて摂っていきました。ところが…

夜中の 2 時頃、腹痛を覚え、トイレに駆け込むことに。ひとしきり「処置」をして体を軽くすると、気分も落ち着いて来たので一安心でしたが、補給したはずのエネルギーが体に吸収できていないかもしれないこと、次に目覚めた時にどうかということが気になりました。それでも、もちろん休み直すしかありません。

4 時間後に目覚めてみると、体調不良という感じはなく、また一安心でした。とはいえ、走り出したら状況は変わるかもしれない、予断を許しません。エネルギー補給も、胃の負担にならないよう、前日以上に気を付けながら進めました。

話は飛んで、レース終盤。スキー場の中の登りで最後のプッシュができ、どうやらレースを全うできそうだと、いう充実感を味わっていました。クラス内トップスタートの位置から、他の選手に抜かれることなく、トップでフィニッシュ。その安堵に加えて、これまでの全日本大会で最もミスが少ないレースをした、という達成感もありました。

トップスタートという点については、多くの人から指摘(冷やかし?)を受けました。「シードじゃないんだね」「他にふさわしい選手が多くいますから」という会話を何度も交わし、笑っていましたが、「全日本大会選手権クラストップスタート」はなかなか体験

できるものではありませんし、実際に興味と意欲に満ちていました。「あのテレインで、多くのコントロールを最初に通過して行けるのは気分が良い」。先述の会話に必ず付け加えていた言葉は、偽らざる気持ちを表していました。

前夜の件で不安もあった中、実力を発揮でき、フィニッシュ後は、ある種の感慨に浸りながらダウンジョグをしていました。一方で、結果への期待と不安も大きくなっていきます。最近の実績から考えると、この出来で入賞に届くかどうか。4 位(入賞ながら、メダルなし)や 7 位(入賞を逃す)というオチもありそうだけに、このまま結果を見ずにいられたら幸せなのだが、という気持ちにもなりました。

結果は 3 位。メダルを手にしたこと、結城選手、小泉選手といった、近年の国内オリエンテーリング界を引っ張る選手に次ぐ位置に付けられたことに対する喜びを噛み締めながら表彰を受けました。

夜中の変調の原因は、今もって「謎」です。強いて挙げれば、年度が改まって環境が変わると、心身への影響が出やすい方であり、今年度もそうだった、という可能性が思い当たります。そこに全日本大会前のプレッシャーが加わり、目に見える形で体が反応したのかもしれない。

この状況で良い走りができることには、「経験」が生きています。全日本大会や世界選手権ではありませんが、過去にも似たような「変調」を、レース直前に自覚したことはあります。そして、良い結果が出たことも、悪い結果に終わったことも…。

今回は全日本大会ということで、「この状況でできるベストの対応を」という気持ちが、過去の似た状況の時よりも強く湧いた気がします。「変調」がなければ、「危機意識」が足りず、良い走りができなかった可能性もありますし、実際、その後の合宿や大会では、全日本の日のような集中した走りを再現できていません。3 位という結果は、やはりあの時点で考えられるベストのものだった、と思えます。

もちろん、悔しさもあります。結城選手や小泉選手とは、5 分の差。しかも、後半の 1 時間ほどの内に付けられてい

ます。勝負所での勘のようなものはともかく、「地力」には1割ほどの違いがある。その認識は忘れず、今後差を詰めて行きたいと考えています。

全日本にしては…

個人的な事情はこれぐらいにして、大会全体を振り返ってみます。

各クラス、プログラム掲載情報からコースは短縮されました。M21Eクラスの優勝タイムは、結局 78 分台。「公認菅平大会」や、「日本学生選手権」なら適切と言えたかもしれませんが、全日本選手権者決定コースとしては、少々物足りなく感じたのも確かです。

もちろん、この冬の大雪が大会準備に影響していました（当日も雪の影響は部分的に残っていました）から、短縮はやむを得なかったでしょう。この連載でも前々回に記した通り、コースとは、「状況に即して設定される」ものでもあります。

運営者の方々が大会のために払って来られた労力には、あらためて敬意と感謝の念を表したいと思います。その上で、購入した全コントロール図を眺めながら、敢えて「物足りなくなさそうなコース」を組んでみました。読図練習にお役立てください。

（繰り返しますが、運営者の方々が、

各種の制約の下でベストの準備されたことは間違いありません。結果論に基づいて組んだコースですし、「このコースの方が良い」というつもりもありません。「読図練習の教材」と、「全コントロールでの遊び方の例」として受け取っていただければ幸いです。）

※結城全日本チャンピオンも唸った読図練習用コース（全コントロール図上の記号・番号を記載）

S1→43→42→34→36→38→39→45→48→55→54→60→58→57→51→56→64→73→74→69→70→77→93→102→79→80→84→88→◎

（松澤俊行）



松澤俊行プロフィール

1972年生現在 41歳。全日本大会 3位。加納選手を上回る「全日本最年長優勝記録」更新を目指し、今後も闘いを続ける。



読図練習用コースを実際に地図に記入したもの（図作成：木村佳司）